

学生の修学支援に 資する施設整備

知の交流拠点・開かれた大学図書館

基本情報

大学名：北海道大学
建物名：附属図書館
工期：平成22年2月～平成24年3月
構造・階数：RC・地上5階
延床面積：18,381㎡



建物外観



オープンエリア

整備の方向性

○開かれた大学図書館として知の交流拠点にふさわしい多世代・多機能図書館の整備

- ・ 図書館全体の再生計画
書架の配置や利用者と職員の動線分離、高度情報サービスのゾーニングなど、多機能で効率的な一体的計画
- ・ 快適な閲覧環境の提供
オープンエリアから静粛な閲覧スペースまで多様な閲覧環境の整備
情報リテラシー教育の充実と支援
ユニバーサルデザインの導入及び動線の見直しによる利用環境の改善
- ・ 将来変化に対応する施設
利用者の多様なニーズに柔軟に対応する空間設定
将来の蔵書数増加に備えた階高と床荷重設定

計画・設計上のポイント

○学習環境の最適化とアメニティスペース等の拡充

既存図書館の改修と一部改築により、閲覧室の集約化、集密書架の導入による新たなスペースを創出し、オープンエリアなどの学習環境の最適化、多様な閲覧環境の整備、アメニティスペースの拡充など誰もが不自由なく利用できる「開かれた図書館」として図書館全体の再生整備を行った。

○附属図書館再生計画

老朽化した図書館の耐震性確保及び適正な蔵書スペースの確保を行い、多機能で安全・安心な教育研究支援環境の再生を目指し、附属図書館及び図書館委員会と施設部が一体となり、「附属図書館再生計画」を策定した。

○関連分野の効率的な配置計画

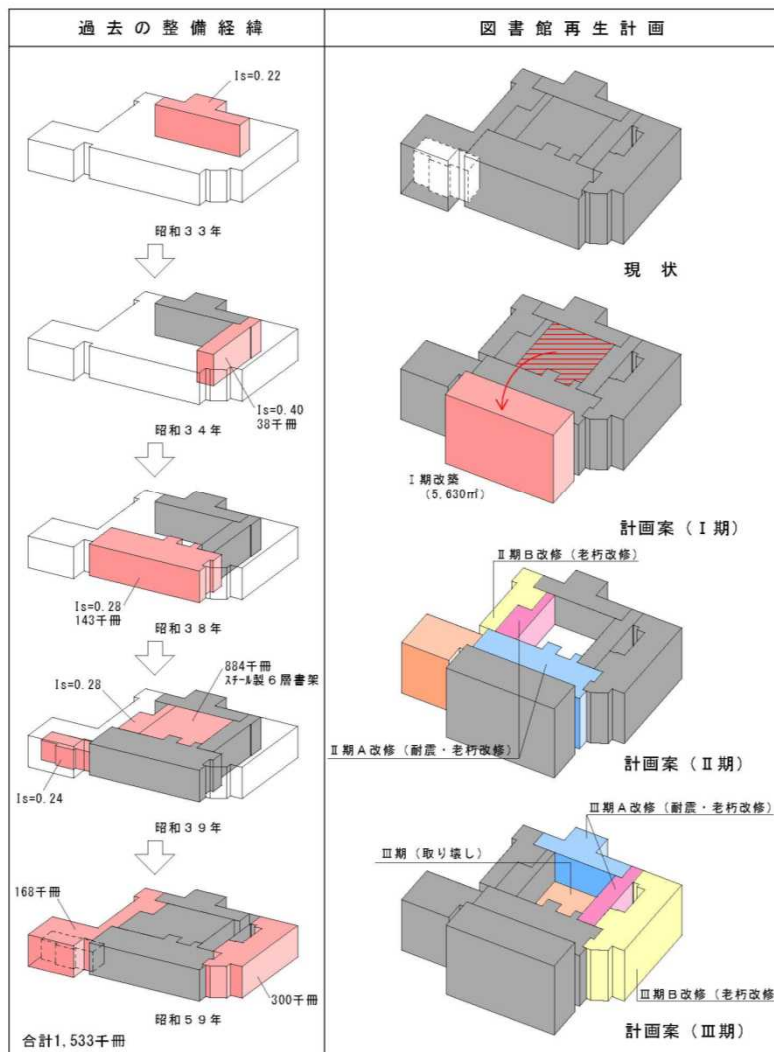
既存建物は、昭和33年～昭和59年まで4回に渡って整備された建物で、書庫及び情報提供機能は分散し、動線は迷路化、さらに建物間には段差があった。

これらの課題解消のためバリアフリー化すると共に関連分野の効率的な再配置を行い、利用者の利便性及び施設管理の機能性向上を目指した計画とした。

○環境や景観に配慮した配置計画

配置計画では、当該建物の前面がサクシュコトニ川が流れる中央ローンで「憩い空間を確保するゾーン」として樹木管理区域に定められていることから、航空写真やCG（コンピュータグラフィック）を活用・評価し、景観に配慮した建物配置とした。

北海道大学附属図書館再生計画図



○交流を育む空間の整備

建築基準法及び消防法上不適合な積層書架の解体部分は、14mの吹抜を活かし交流の場やイベントなど多目的に利用できるメディアコートとして再生した。

○将来変化に対応する蔵書スペースの確保

改築した建物には、将来の蔵書数増加に備え2～5階は集密書架を配置できる床荷重設定とし、地下2階～1階部分は更に蔵書数を増やすことができるよう積層集密書架や自動化書架を設置できる階高と床荷重設定とした。

Before



積層書架



開架書架

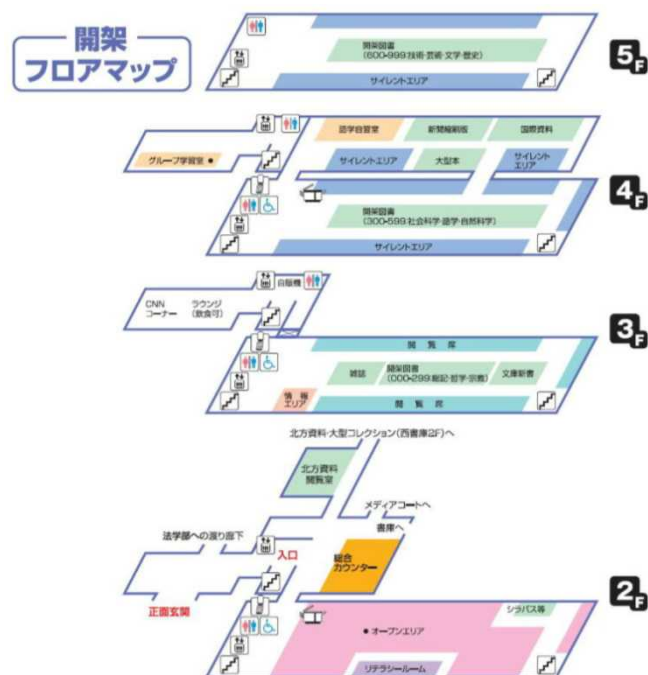


閲覧室



閲覧室

After



After



メディアコート



オープンエリア



閲覧エリア（2階）



サイレントエリア（4階）

施設整備の効果

○ラーニングコモンズ、メディアコモンズのスペースを設置

会話しながら学習できるオープンエリア、情報リテラシールーム、サイレントエリア、語学自習室、個人ブースの設置など多様なニーズに対応した多機能な学習環境を整備した。また、北海道大学教育情報システム（ELMS）のパソコンを71台設置するなど、紙媒体資料と電子資料に対応できる図書館のハイブリット化を進めた。

これにより、図書館が、本学の中期目標の一つである「世界水準の人材育成システムの確立」のため「学生の学習支援機能の充実」を図っていくことの一翼を担う学習環境を提供できるようになった。

○書庫再編による収容能力向上と閲覧環境の改善

閲覧座席数を576席から745席に増設し、学習用図書の配架可能冊数を14万冊から17万冊に拡大した。また、入館者は整備前と比較し約25%増え貸出冊数も増加している。

アクティブラーニングスペースの戦略的改修

基本情報

大学名：東北大学
建物名：附属図書館 本館
工期：平成25年10月～平成26年9月
構造・階数：RC・地上2階、地下2階
延床面積：12,481㎡



建物 外観写真



リベラルアーツサロン開催

整備の方向性

○教養教育の強化

- ・ 本学の研究の実施体制等に関する目標を達成するための措置としての「教養教育の実施体制の整備」においては「全学体制による教養教育を強化するため、中核的な教育・研究組織を整備」「eラーニングによる教育システムの拡充」等とされており、目標を具現化する事業として明確に位置づけられており、自ら目的を持って情報を集め、閲覧・学習・研究・習得できる学生を育てることは非常に重要な課題であるため、それらの活動に必要な空間と設備を備えるスペースを確保し施設面から学生を支援することを目的として整備を行った。
- 具体的には、学習活動への情報通信技術（ICT）の活用、個人での学習や研究活動とグループでの学習や問題解決をバックアップできる体制と環境、学習活動の合間に寛げる「場」、これらの整備と人員による支援を肝要としたものである。

計画・設計上のポイント

○教育研究空間の最適化

- ・ 静謐な読書・学修空間と資料を提供してきた従来の図書館の役割とは違い、学生の主体的・能動的場自学自習やグループでのアクティブな学習を支援し情報検索のみならず、ディベート・ディスカッション・研修等の対話可能な共同空間を示している。
- ・ 本学アクティブラーニングスペースは学修形態の違いから下記の3エリアで構成し、学生の活動を効果的にサポートする空間を形成した。



図書館での講義
〈グループディスカッション〉

Before



After

Tohoku University Library 1F Main Floor Learning Commons



アクティブラーニングスペース パース

○本学アクティブラーニングスペースの主な構成

・ Long/Short Time PC Work Area

インターネット検索、個人学習、レポート作成向けPCワークエリア。
想定される用途・利用時間に応じて作業スペース等を勘案し長時間向けと短時間向けに別レイアウトとしている。

・ Flexible Work Area

容易に移動可能な机・いす・ホワイトボード等を備え、用途に応じて自由にレイアウトを組み替えて利用できるワークエリア。

各種イベントやグループ学習等、様々な利用形態に対応できる。

・ Group Box Area

少人数向けにパーティションで区切られたボックス席。ディスカッション等の用途に対応。



PCWorkArea
利用状況



FlexibleWorkArea
利用状況



GroupBoxArea
利用状況

施設整備の効果

○利用・活用活動の広がり

・図書館開館日時を拡大

多忙な学生でも十分な自学自修の時間を持てるように配慮、また日祝も開館し各種イベント等の開催や一般の地域住民も利用しやすいよう、利便性の向上を図った。

平日 9:00～21:00 → 8:00～22:00 (2時間延長)

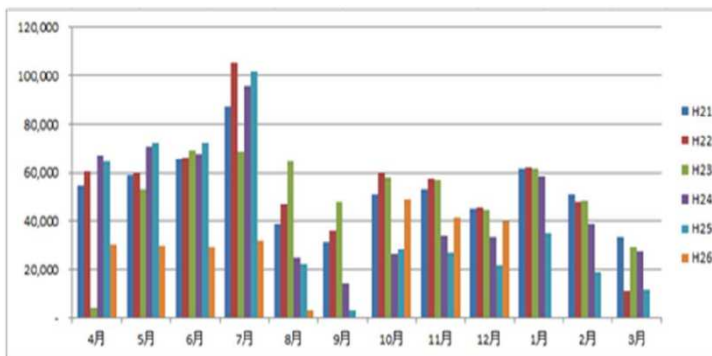
土曜 9:00～17:00 → 10:00～22:00 (4時間延長)

日祝 休館 → 10:00～22:00

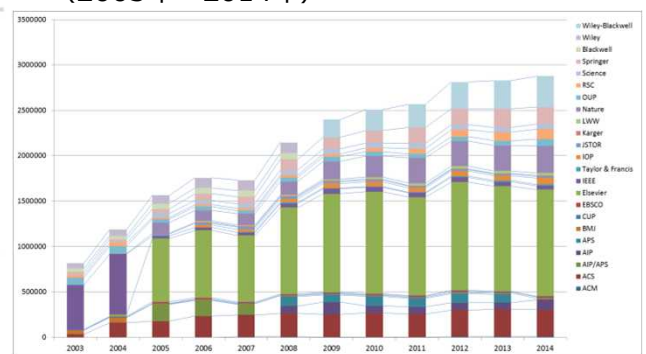
・教育上の効果

上記の工夫を行うことで学生の修学活動を全面的に支援し、図書館そのものの利便性も向上した結果、リニューアル後の来館者数はリニューアル前を上回るペースで推移しており、電子ジャーナル利用件数は約110万件増(約283万件)となった(平成19～25年度比較)。

入館者数比較(平成21～26年度)



主要な電子ジャーナルの利用件数の推移(2003年～2014年)



・アカデミック・コミュニケーション

サイエンスカフェやリベラルアーツサロン等を、効果的に実施できるオープンスペースを配置し、本学の学生だけでなく、近隣の学生や社会人、地域の方々との交流・社会貢献活動を通して、地域における本学の学問的、文化的、社会的な重要性と存在感を示すことができる。また、これらのアカデミック・コミュニケーションの活性化によって、本学における社会的・国際的な人材の育成に寄与することができる。



近隣の高校生がグローバル学修室にて英語多読について本学講師より講義を受ける。(グローバル人材育成を目的に高校から依頼があったもの)

新潟大学中央図書館～快適かつ機能的な知の空間

基本情報

大学名：新潟大学
建物名：中央図書館
工期：平成23年11月～平成25年3月
構造・階数：RC・S 地上3階
延床面積：14,272㎡



建物 外観写真



ラーニングコモンズ

整備の方向性

○コンセプト

- ・ラーニングコモンズ機能の強化・拡充
多様な学習形態に合わせた開放的な空間の整備
- ・アーカイブ機能の強化・拡充
自動化書庫の導入による書架狭隘の解消
- ・インフォメーションラウンジ機能の強化・拡充
学内外の人が交流が可能な新たな機能を整備
- ・ハイブリッド図書館の実現
電子資料と紙資料が自由に使える図書館機能に加え、ラーニングコモンズ・アーカイブ機能・インフォメーションラウンジ機能を一体化して整備
- ・図書館機能の再生
目次空間を設け、利用者の動線がよく「見通しがよい、わかりやすい図書館」を整備

計画・設計上のポイント

○図書館機能の再生

- ・耐震補強を施し、安心安全・開放的な学習空間を実現
- ・既存建物の中央部を3層吹抜けとした立体動線をとって配置し、館内を一望できる目次空間を新設
- ・目次空間を中心とした6つの資料ゾーンを配置

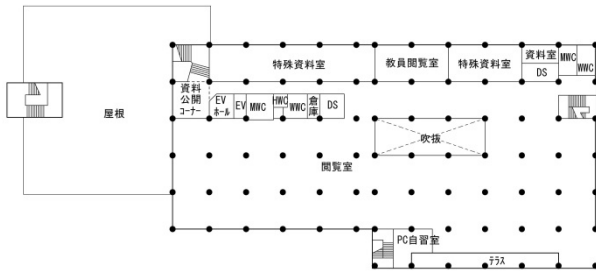
○ラーニングコモンズ機能の強化・拡充

- ・多様な学習スタイルにあわせて、ICT講義室・プレゼンエリア・グループ学習室を整備
- ・教育組織と連携、スピーキングブース・会話スペース・外国語学習支援スペースを整備
- ・学生が什器類を自由に移動し、使いやすい学習環境を創造できる広いスペースを確保

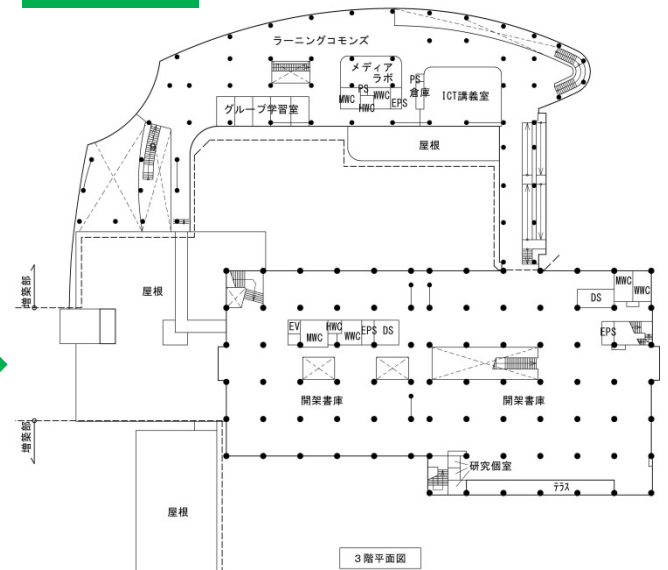
○既存建物との一体化

- ・既存部図書館に増築部をコの字型に配置し中庭を囲む循環動線を持たせた活動的な図書館として整備

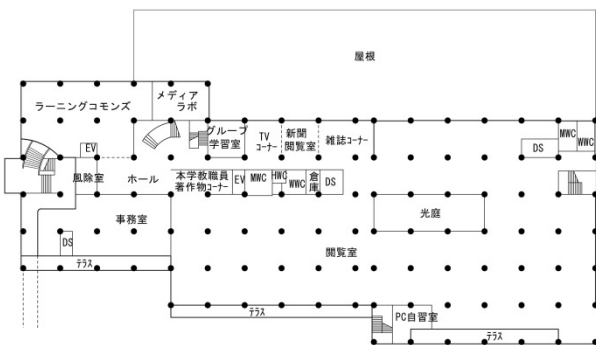
3階



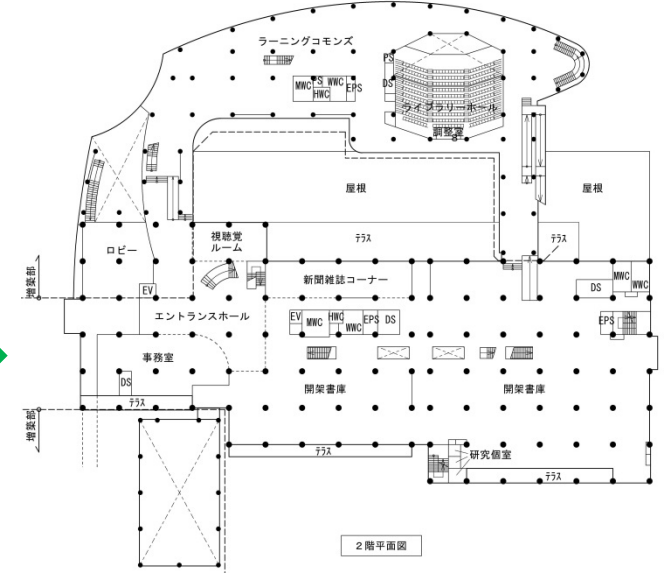
3 階平面図



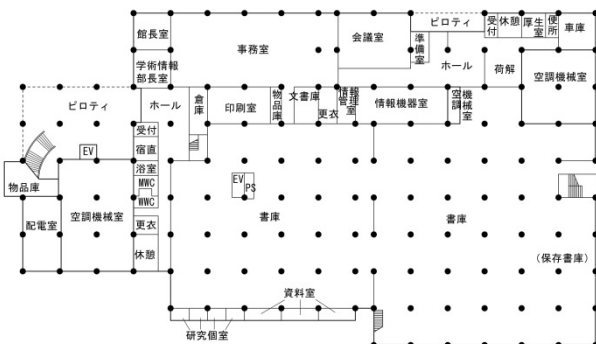
3 階平面図



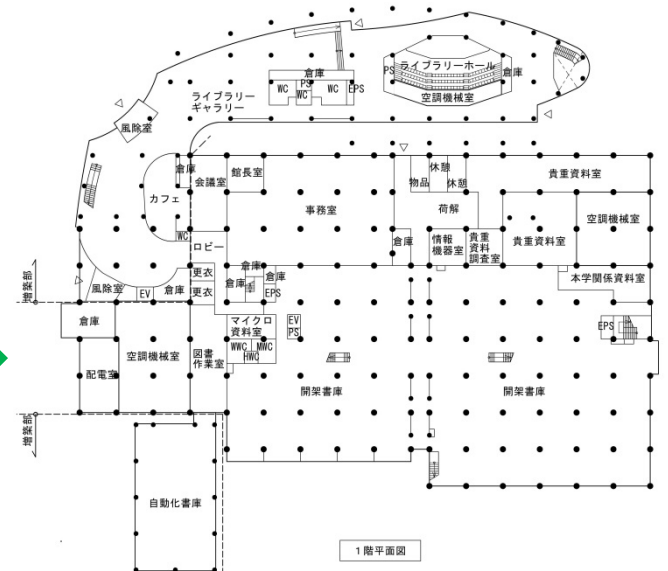
2 階平面図



2 階平面図



1 階平面図



1階平面図

Before

目次空間



After



閲覧スペース



書架スペース



施設整備の効果

○利用者の増加

- ・ 明るく開放的な図書館に多くの利用者が来館し、利用者数が倍増した。
H23年(改修前)約49万人 → H25年(改修後)約94万人

- ・ 学生からは「話せる雰囲気がいい」「グループ学習がしやすくなった」「気軽に入館できるようになった」との声が寄せられており、人が集まる図書館となった。

ソファ・ベンチを配置し、学習の合間の休憩・リラックスできるようなアメニティ環境に配慮
自習スペースの机を窓側に配置し、明るい学習環境を提供
書架間を広くし、ゆったりと図書を探すスペースを確保

○整備コンセプトに対して

- ・ 図書機能の再生
中央部分に3層を貫く立体動線を新設し、館内が一望できる目次空間を設け、書架スペース・閲覧スペース及び利用者動線を効率よく配置し、「見通しがよい、わかりやすい」利用環境となった。
- ・ ラーニングコモンズ機能
ラーニングコモンズ・グループ学習室は、常に多くの学生に利用されている。
- ・ アーカイブ機能
自動化書庫の導入により、収納スペースを増加し資料整理・貸出返却が正確に行えるようになったことで、学生・教職員が必要な資料を迅速に確実に入手できるようになった。
- ・ インフォメーションラウンジ機能
パブリックスペースとして、学生の他に地域の方々にも利用され交流の場になっている。

ラウンジ：大学の活動を紹介するプレゼンテーションスペースやミニコンサート会場など
ライブラリーホール：国際会議・学会・研究会のほか、一般向けの講演会・公開講座など

にぎわいあるスペースと静かなスペース



建物 外観写真

基本情報

大学名：名古屋大学
建物名：図書館
工期：平成25年9月～平成26年5月
構造・階数：RC 地上5階地下1階
延床面積：15,597㎡



研究個室

整備の方向性

○アクティブラーニング環境の強化

- ・ディスカッション等を行う「にぎわいのあるスペース」と学習等に集中できる「静かなスペース」をフロア毎にゾーニングして自学自習の場を創出した。
- ・研究個室及びカウンター席を増設し、学習に集中できる場所を多く確保した。
- ・集中して議論できる個室（ラーニングポッド）や、オープンスペースの一角（ディスカバリスクエア）をディスカッション出来る場所として開放。コミュニケーションの場も多く設けた。

計画・設計上のポイント

○にぎわいのあるスペース

- ・エントランスやラーニング・コモンズのあるフロアを「にぎわいのあるスペース」と位置づけ、ガラスでゆるやかに仕切ったオープンなディスカッションスペースを設置し、見える、聞こえる場所で活発なディスカッションが行われることで互いに刺激を与え合う空間を創出した。
- ・各種イベントやセミナーにも活用できるよう工夫した。

○静かなスペース

- ・上階のフロアには学習・研究に集中できる個室を整備。2階、3階、4階と上階にいくほど「静かなスペース」として位置づけ、階ごとの明快なゾーニングで利用者にも分かりやすい構成とした。
- ・3階にはグループ学習等ができる個室を設置し、ガラスを用いて議論の様子が窺えるものとした。

Before

にぎわいのあるスペース



静かなスペース



After



グループレARNINGエリア



ディスカバリスクエア



ラーニングポッド



自学自習スペース

Before

ラーニング・commons



After



以前は机が並べられていただけの空間が、改修後はPC利用、個人のノートPC用を持ち込み、PCを利用しながら資料も広げられる環境を整備し、また、グループ学習ができるスペースも設け、アクティブラーニングを促す環境形成の強化が図られた。

貴重書室



附属図書館についての外部評価では貴重書の保存状況が適切ではないと指摘を受けており、貴重書の適切な管理・保存が喫緊の課題となっていた。この改修により、中央図書館にある貴重書が適正に管理され、大学のみならずこの地域においても貴重な学術情報資源の長期的な保存が可能となった。

ビブリオサロン



展示イベント開催時

利用率の低かった4階展示室を2階入口横に「ビブリオサロン」として移転し、来館者の知的交流の場として、また地域貢献の場として活用されており、展示イベント開催時には多くの地域住民が来館している。また、授業・研修にも利用できるなど、空間に可変性を持たせた。実際に職員研修のワークショップの場として利用され、活発な意見が飛び交うなど、限られたスペースを有効に活用する計画としている。



職員研修の開催場所として活用

施設整備の効果

○居心地のよい学習空間

- ・窓際スペースにカウンター席や研究個室を増設し、グリーンベルトの緑豊かな景観を取り込み、開放的で快適な学習空間を創出したことにより、図書館の滞在時間が長くなり、利用率が向上した。

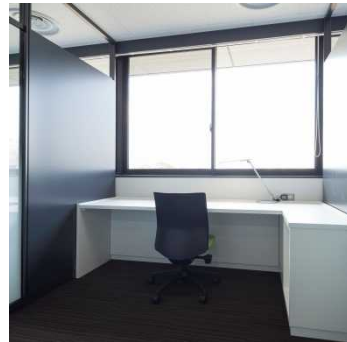


カウンター席

- ・議論を促す「にぎわいのあるスペース」と、学習・研究に集中できる「静かなスペース」を明快にゾーニングしたことで、「にぎわいのあるスペース」では活発な議論が促され、大学機能の活性化につながっている。また、留学生スタッフのサポートによる様々なイベントが開催されており、にぎやかな空間でゲームなどを行いながら英語を学ぶことができ、日本人学生のさらなる英語力向上につながっていると同時に、留学生との交流も促され、グローバル人材の育成につながっている。「静かなスペース」では学習や研究に集中することができ、学生の自学自習をサポートする空間が形成された。



「にぎわいのあるスペース」：ディスカバリスクエア



「静かなスペース」：研究個室

○安心・安全な学習環境

- ・耐震改修を行ったことにより、学生への安心・安全な学習・研究空間の提供が図られたとともに、これまで収集してきた海外や国内の貴重な資料が安全に保管され、将来に渡り優れた学術情報を引き継いでいくことが可能となる。

○周辺施設群と調和する景観

- ・これまではレンガ色だった外壁を無彩色とすることで、グリーンベルトを取り囲む豊田講堂や周辺施設群と調和する、一体的な景観形成を図った。



グリーンベルトを取り囲む
図書館（写真中央）と周辺施設群

○人の流れを生み出す計画

- ・学生の自学自習だけではなく、ゼミや授業、研修等にも利用できるスペースを設けたことで、東山キャンパスの中心に位置する図書館への人の流れがさらに生み出され、屋外空間や周辺施設群を含めた活性化につながっている。

教職員及び学生の相互交流の場所

基本情報

大学名：京都工芸繊維大学
建物名：プラザK I T
工期：平成19年4月～平成19年7月
構造・階数：RC 地上1階
延床面積：172㎡



建物 外観写真



整備の方向性

○大学センターホール東アメニティ計画

- ・西部構内の環境整備
- ・既設建物の有効活用
- ・学生のコミュニケーションスペースの拡充
- ・地域に融合した開放感のあるデザイン

計画・設計上のポイント

○学内公募による基本設計

- ・学内設計競争として、学内公募により基本設計を行い、学外への案内、交流スペース、学生・教職員のコミュニティスペース、展示スペースを大学の玄関口として整備した。

○日本の近代建築史に名を残す本野精吾設計の車庫をリビルド再生

- ・既存の2棟（車庫と倉庫）をリビルドして再生させ、守衛室を増築し、西部構内の入口に学外へショーケース的役割を担う。
- ・登録有形文化財として活用。

Before



After



Before



After



施設整備の効果

○改修による効果

- ・ 学生や教職員の交流、本学刊行物、教育研究活動成果物の掲出・配布、本学で開催された学会、フォーラム等参加者の交流、その他キャンパスアメニティの向上が期待できる活動に利用している。貸し切りの場合は、利用予約により無償で利用が可能。
- ・ 学生達の情報交換、休憩、時間調整に頻繁に利用することで、学生間のコミュニケーションの向上が図れている。
- ・ クラブ活動等の会合等、研究室の打合せ等に利用。また、作品等の展示公開を行っている。
- ・ 附属図書館の除籍資料、教職員からの提供図書等を無料で配布する「KITぷらっとお持ち帰りフェア」を毎年開催している。